

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	沖縄県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	知念村立知念小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	3	1	14	21
児童数	58	49	57	61	50	82	2	359	

II 研究の概要

1. 研究主題

「自ら考え、学ぶ子の育成」
 —基礎学力の定着を図る指導を通して—

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

① 習熟度別少人数指導 2年生以上
 ○ 2年生～6年生までの国語・算数を主に実施
 （基礎学力の基となる教科であり、個人差が出やすく、大きいため）

② 一単位時間の弾力的運用（3・4校時、5・6校時をノーチャイムとし、90分授業を実施し、指導と評価の一体化を図る）
 ○ 1年生～6年生までの国語・算数を主に実施
 （基礎学力の基となる教科であり、個人差が出やすく、大きいため）

③ 地域人材を活用した教育活動
 ○ 1年生～6年生までの国語・算数・道徳・音楽・総合・補習指導等で実施
 （児童一人一人にきめ細かい指導をすることで学習意欲の向上を図るとともに学習内容の確実な定着を図る）
 （専門家の指導を通して児童の意識を高める）

④ 一部教科担任制
 ○ 3～6年生で実施
 実施教科：3年生：算数・社会・理科・音楽・図工
 4年生：算数・社会・理科・図工
 5年生：図工・社会・家庭科・体育・音楽・理科
 6年生：社会・体育・理科・音楽
 （教科担任制の良さを活かすことによって教科指導の質を上げるとともに児童一人一人を複数の教師が指導することで児童の多面的な能力を引き出し、学力の向上を図る）

(2) 年次ごとの計画

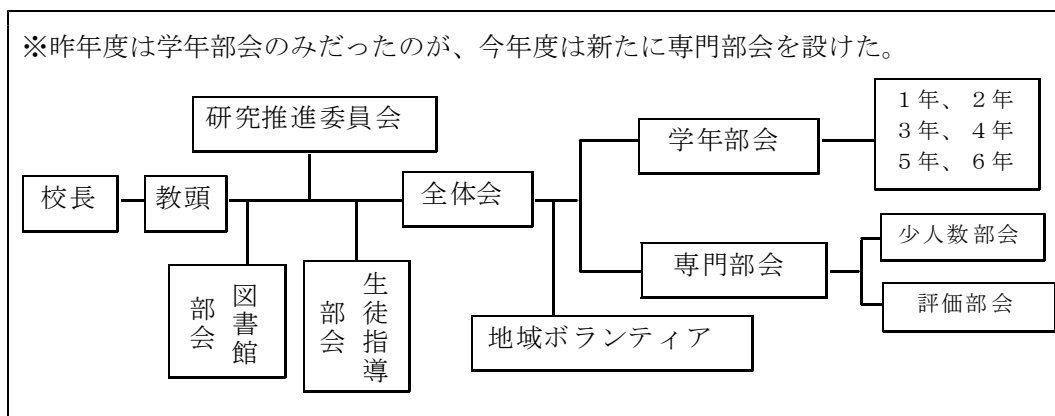
平成14
 ○テーマ
 「自ら考え、学ぶ子の育成」
 —基礎学力の定着と調べ学習の充実を通して—
 ○仮説
 基礎学力を身につけさせることで、自分なりの考えや学び方に筋道を持つこと

年度	<p>ができ、より自信と意欲を持って学習に取り組む児童が育つであろう。</p> <p>○研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①一単位時間の弾力的運用 ②地域人材を活用した教育活動の充実 ③一部教科担任制（5・6年において一部教科担任制を実施） ④少人数指導の指導法の工夫改善（少人数加配・学年 TT・学級 TT） ⑤基礎基本的事項の確実な定着を図るための研究（補習指導）
----	---

平成15年度	<p>○テーマ 「自ら考え、学ぶ子の育成」 －基礎学力の定着を図る指導を通して－</p> <p>○仮説 1年目の反省を基に、実践を充実・発展させることで児童に自ら考え、学ぶ実践力を身に付けさせることができるであろう。</p> <p>○研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①〔①～⑤〕は平成14年度の踏襲・日常化・充実 ②指導と評価の一体化を図るための具体的な評価法の研究 ③補充学習資料の修正と充実 ④発展的学習の開発 ⑤実践研究を普及する手だてとしての学校ホームページ作り ⑥学習指導カウンセラーの先生の指導・助言による授業の工夫・改善 <p>※サブテーマの表記で「調べ学習」をはずした。基礎学力に絞ってテーマにせまるためである。</p>
--------	---

平成16年度	<p>○テーマ 「自ら考え、学ぶ子の育成」 －基礎学力の定着を図る指導を通して－</p> <p>○仮説 前年度の反省を基に、充実・発展させることで児童一人一人に「より確かな学力」を身に付けさせることができるであろう。</p> <p>○研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①〔①～⑤〕は平成14年度の踏襲・日常化・充実・発展 ②指導と評価の一体化を図るための具体的な評価法の確立の研究 ③補充学習資料の修正と充実 ④発展的学習の修正と充実 ⑤実践研究を普及する手だてとしての学校ホームページ更新
--------	--

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- 個に応じた指導の充実が図られた。
- 児童がじっくり学び、指導と評価が評価が一体化する場の充実が図られた。
- 教材研究の深まりが見られた。
- わかる喜び、学ぶ意欲の成就と基礎学力の向上が見られた。
(昨年度の達成度・基礎学力検査の結果からの追跡調査で平均点が向上した(国語66点→77点、算数69点→80点)。また、9月に行った実態把握としての達成度・基礎学力検査から児童全体の伸び率が国語で1.3倍、算数で1.4倍に伸びた。)
- ホームページの作成ができた。(http://academic.plala.or.jp/chinen-s/)

2. 今後の課題

- 指導と評価が一体になった授業づくりの深まりー学習過程の工夫
- 発展教材、補充教材の工夫
- 学年会の持ち方の工夫
- ホームページの更新

Ⅳ 学力等把握のための学校としての取組

- 定期的な学力検査の実施(今年度は5月、12月に行った。)
- 実態把握テスト(昨年度の達成度テスト・基礎学力検査を使用)(9月)
- 県教育委員会による達成度テスト・基礎学力検査(12月)

Ⅴ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- パンフレット、学校通信、授業参観日で保護者へ説明を図った。
- 学力向上フロンティア実践研究報告・村学力向上対策実践発表会で取組の報告を行った(平成16年1月10日)
- 今年度よりホームページを立ち上げ、取組内容を掲載している。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関する加配の有無】 有 無 _____